



トドス N4号  
発行日 平成20年3月28日  
発行人 北海道インテリアコーディネーター協会  
札幌市東区北13条東1-1-10 j-sense 札幌  
Tel:011-788-7055 Fax:011-788-9935  
事務局 E-mail  
hokkaidou-ica@hica.co.jp  
発行責任者 中村ゆかり

平成20年1月～平成20年3月 活動報告  
2月08日 新春セミナー 2月08日 新年会  
2月20日 見学会 2月20日 第11回幹事会  
3月19日 第12回幹事会  
3月26日 トータルインテリアキャンペーン イン 札幌  
「情報スタジオ」  
「暮らしから考える北のデザイン」セミナー  
3月28日 トドスN4号発行

新春セミナー報告

「新しい年を環境から考える」

平成20年2月8日(金)20:00～21:30

< 新しい年を環境から考える >



「北海道洞爺湖サミット・報道拠点はCO2抑制」をテーマに2月8日(金)北海道東リ(株)会員の会議室をお借りして「ケナフ草」から見たCO2抑制について学びました。

7月に北海道洞爺湖サミットが開催されるのは皆さんご存じの通りですが、国際メディアセンターの「プレスセンター棟」「議長・各国首脳会見場棟」は環境に配慮した技術で建設されます。そのためビニールクロスなどの石油

化学製品は使われず、成長が早く、収穫できる繊維が多いことから近年注目されているケナフの内装材を、木材由来の製品に代えて天井や壁に使用すると新聞に掲載されていました。当会の賛助会員である北海道東リ(株)さんはケナフに早くから取り組んでいらっしゃる内装メーカーである事から、東リ(株)事業本部研究開発部門長・執行役員 木寅 且彦氏を講師に招き、紙漉き体験も交えて「ケナフ博士を目指して」の内容で講演をして頂きました。



ここではケナフ紙漉きの方法を中心に報告いたします。まずは乾燥したパルプを千切って500ミリリットルのペットボトルに入れます。ペットボトルの口から入るように小さく千切ります。ペットボトルには半分程度の水と攪拌が容易なようにビー玉が入っています。本来はミキサーを使ったりするそうです。パルプが、どろどろになるまでペットボトルを振ります(これが結構力仕事!) 会場のあちこちからビー玉がぶつかり合うカチカチという音がこだまします。会場には一心不乱にペットボトルを振り続ける奇妙な大人たちが。一生懸命やると額から汗が出るくらい。それ位振らないとOKは出ません。中にはシェイカーに見立てていた人もいましたね。どろどろの、お粥状になったパルプを今度は紙漉きセットに流し込みます。紙漉きセットは水を張った水槽になっていて、その中にはプラスチックの枠と網が入っています。その中のケナフが平らに均等になるように水の中で軽く振ります(これが漉くという行為なのです)。水に浮かべては沈めてを繰り返し、左右前後に枠を動かしてみたりすること数分。平らになったら今度は枠から取り出し新聞紙で挟んで水気を切ります。窓に貼り付けて平らにする人が現れたり、独自の行動に出たりする人も。この先は各自の創造性が発揮される場面に入ります。平らになった生成りのケナフに和紙を重ねる、色紙、毛糸など等を散りばめてハガキ大のオリジナル



のケナフ紙の出来上がり。会場のあちこちから童心に帰ったような声が上がっていました。結局、全員2枚のケナフ紙を制作したのでした。一つのテーブルに4人が座り、ワイワイガヤガヤ楽しい実習でした。



高橋洋之 トドスのデビュー戦、普段文章を書く機会も多いワタシですが初めての原稿の出来はどうだったかな。次号も何か書かせて～

新年会 報告

平成20年2月8日(金)20:00～21:30

2月8日、新春セミナー終了後に会員・賛助会員のみなさんとセミナー講師の木寅氏との懇親も一緒に、会場の近くにあるお食事処「てまひま」で開催し新春を祝いました。

北海道洞爺湖サミット2008にできる事

今年7月に開催されるサミットは環境問題が強い主題と言われています。会場建設業者の選定にもどの位の配慮が考えられているかがポイントでした。期間中に必要な50,000食のお弁当は材料以外に使用する容器の回収なども選定基準とされました。しかしその食材の北海道での調達比率はどのくらいなのでしょう。北海道の食料自給率200%は種子・肥料・飼料・暖房を輸入・移入した上での数字です。

今冬のような強い寒気の場合には電気・ガス・灯油・まきなどあらゆる燃料が大活躍をしますが、原油高もあり寒さを我慢する省エネや工夫につながりました。防寒性能を持つ建物に、さらに省エネ効果を挙げるインテリアを合わせ素敵な空間の提案を考える、IC一人々のサミット2008にして行きましょう。

編集後記 今号が皆さんのお手元に届く頃には春が始まっていることでしょうか。花が咲くのは楽しみです。お気を付けてください。◎ 今号は会員さん特集!個性とセンス光る方々ばかりで取材が楽しかったです。今年は会員交流を深め賑やかで活気ある団体にしていきましょうネ!◎ は～るがき～た♪は～るがき～た～♪◎ 編集スタッフ 中村ゆかり◎ 増永佳奈◎ リカちゃん◎

見学会 in 北海道開拓の村 報告

平成20年2月20日(水)13:00～15:00

北海道の醍醐味とも言われる冬が過ぎ、穏やかな春の陽射しを感じられる季節となりました。降り積もる雪との格闘の毎日で大変であったはずなのに、いざ過ぎ行くものと感じると名残惜しく思います。もうじき迎える春は始まりの季節。気持ち新たに新年度のスタートですね。そして季節は少々廻りまだ雪深かった2月20日(水)、厚別区厚別町小野幌にある『野外博物館北海道開拓の村』への見学会が開催されました。

幼少の頃に学校の行事やご家族で来たという方も多くいらっしゃると思いますが、私は初めての訪問で、想像以上にスケールが大きく本格的なことに驚きました。「こんな身近に、こんなに楽しい場所があったなんて!」というのが一番の感想です。



北海道開拓の村は、明治から昭和初期にかけて建築された北海道各地の建造物を54.2ha(ヘクタール)に及ぶ広大な敷地の中に移築復元・再現した野外博物館です。開拓当時の生活を身近に感じることが出来ると共に、文化の流れを示す建造物を保存して後世に永く伝えることを目的とし1983年に開村されました。北海道の開拓に関わった人たちの知恵と努力を直に見る事が出来ます。

市街地群・漁村群・農村群・山村群の4つで構成される開拓の村では、地産地消が生活の基本となり、お互いに助け合いながら暮らしてきた光景を想像します。その街並には道外から持ち込まれた建物や生活洋式も多く見受けられ、それぞれに特徴ある形状や空間には興味心・探究心をそそられます。



現代と比較してとても開放的な造りとされていた開口部は、風や冷気の侵入で冬は寒さや雪に悩まされたことと思いますが、暮らしが外へ開かれており、人そして心の交流が盛んであったことを示しています。また、自然の光や風を取り入れて暮らしに活かしていた先人の知恵と工夫でもあります。一方内部では、人が集う『炉』が生活の中心として大きな役割を果たしていた事を感じました。明かり・暖房・家事・炊事・食事と多くの事が行われ、会話が行き交う光景が目に見えようでした。

一般の住宅としては、西洋のインテリアを思わせるような家具やカーテンのような『意匠』はあまり見られませんが、必要最低限の『機能』の中で日本のしつらいを表す建具はありました。そして、小さめの住居でも2間以上の床の間と床脇がありました。貧富の差はあっても日本の『精神性』や『伝統文化』は息づくもので、その空間は決して豪華ではないけれど、慎ましく奥深い美しさを感じさせてくれるものでした。



移住者による開拓で築かれてきた北海道。それぞれが持ち込んだ建物や暮らしが年月を経て、この土地に合う形へと改善・改良を重ねて来た結果として今の北海道があるということ、そして100年余りの間に北海道の『インテリア』はととても大きな変化と発展を遂げてきたのだということに気付かされました。

当日は当時の装いを体験出来る衣装無料貸出が行われていたので、わらぐつとマントと帽子を貸りて、意気揚々と村の中へ脚を踏み入れました。思いのほか温かくてびっくり!すっかり当時の村人になりきり、タイムスリップ気分を味わえてとても楽しかったです。そして、3月3日の桃の節句に合わせて大正～昭和中期の雛飾りの展示が行われていました。このように季節に合わせた様々なイベントを企画されている点を始め、当時の生活をよりリアルに表現している家具や小物など建物内部のディスプレイや、雪が続いた時期にも関わらずしっかりと除雪されていて歩きやすかった道、どの建物の建具も開閉が渋くなくスムーズだったことにも驚きました。隅々まで行き届いたお手入れと配慮がとても好印象で、施設を運営されている方々の想いや努力が伝わってきました。案内をして頂いた学芸員の中島さん、有難うございました。

あまりに見所があり過ぎて、とても半日では見尽くせません!改めてじっくり時間をかけて探索に行きたいと思っています。きっと四季それぞれに表情が違うことでしょうかから楽しみも倍増です。そして来冬こそ馬そりに乗るぞー!(参加希望者お待ちしています。笑)



とても充実した見学会となり大満足の一日でした。皆さんも機会を設けて是非一度足を運んでみて下さいね。◎ 増永

次回もトドスは会員さんご紹介を予定しています。皆さんのところへお伺いすることや、原稿などの依頼を致します。どうぞ取材にご協力お願いします。:◎